

宝飾品（ジュエリー）市場に関する調査を実施（2018年）

－2017年は各分野により好不調がみられ、全体の市場規模は横ばいに留まる－

【調査要綱】

矢野経済研究所では、国内宝飾品（ジュエリー）市場について調査を実施し、2017年の市場規模（実績値）、および2020年まで予測値を公表する。

- 1.調査期間:2017年1月～12月
- 2.調査対象:宝石専門店チェーン、百貨店や時計宝石店および呉服などの異業種宝飾参入企業、インポートジュエリーブランド企業等
- 3.調査方法:当社専門研究員による電話及び直接面接によるヒアリング、および郵送アンケートを併用

<本調査における宝飾品（ジュエリー）とは>

本調査における宝飾品（ジュエリー）とは、主に金やプラチナを素材に、ダイヤモンド、貴石、真珠などを使用した宝飾品を対象とし、宝飾時計、ならびに一部シルバー素材や半貴石の商品を含む。

【調査結果サマリー】

◆ 2017年の国内宝飾品小売市場規模は9,468億円、前年比100.6%と微増

2017年の国内宝飾品（ジュエリー）小売市場規模は、前年比100.6%の9,468億円と、2年続いた縮小基調から一転、プラス成長となった。年初から徐々に株価も上昇、景気回復感が高まりを見せる中で、宝飾市場も次第に回復をした。年後半には金価格も上昇し、クリスマスシーズンの購買も広がった。

◆ インバウンド需要は堅調

2017年も訪日外国人による爆買いといった大量購入は控えられたものの、インバウンド（訪日外国人客）需要は確実に広がった。訪日外国人客数は年々増加を続けており、百貨店や海外ブランドを中心に宝飾品消費も伸びた。特に訪日中国人や日本在住の中国人によるWeChat（微信）などのSNSアプリを使った代理購買（本国にいる中国人の代わりに買い物をする）需要が高まりを見せた。

◆ 2020年の国内宝飾品小売市場規模は1兆17億円と堅調推移を予測

2020年の国内宝飾品（ジュエリー）小売市場規模は、1兆17億円を予測する。今後大きく伸長することは難しいものの、国内景況感の改善が見込まれるなか、2019年に予定されている消費税率引上げ前の駆け込み需要、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおけるインバウンド（訪日外国人客）需要や国内需要などが期待されることから、市場は堅調に推移するものとみる。

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 市場概況と予測

2017年の国内宝飾品(ジュエリー)小売市場規模は、前年比100.6%の9,468億円と、2年続いた縮小基調から一転、プラス成長となった。年初から徐々に株価も上昇、景気回復感が高まりを見せる中で、宝飾市場も次第に回復をした。同年後半には金価格も上昇し、クリスマスシーズンの購買も広がった。

今後大きく伸長することは難しいものの、国内景況感の改善が見込まれるなか、2019年に予定されている消費税率引上げ前の駆け込み需要、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおけるインバウンド(訪日外国人客)需要や国内需要などが期待されることから、市場は堅調に推移し、2020年の国内宝飾品(ジュエリー)小売市場規模は、1兆17億円を予測する。

2. 注目すべき動向

2-1. インバウンド需要

日本政府観光局(JNTO)によると、2017年の訪日外国人客数(総数)は約2,869万人を記録した。なかでも中国からの訪日客は約736万人と国別ではもっとも多く、前年と比較して15%程度伸びている。これらインバウンド需要に加えて、日本在住の中国人によるWeChat(微信)などのSNSを活用した代理購買(本国にいる中国人の代わりに買い物をすること)は、日用品のみならず宝飾品にまで及び、市場の一角を創出した。

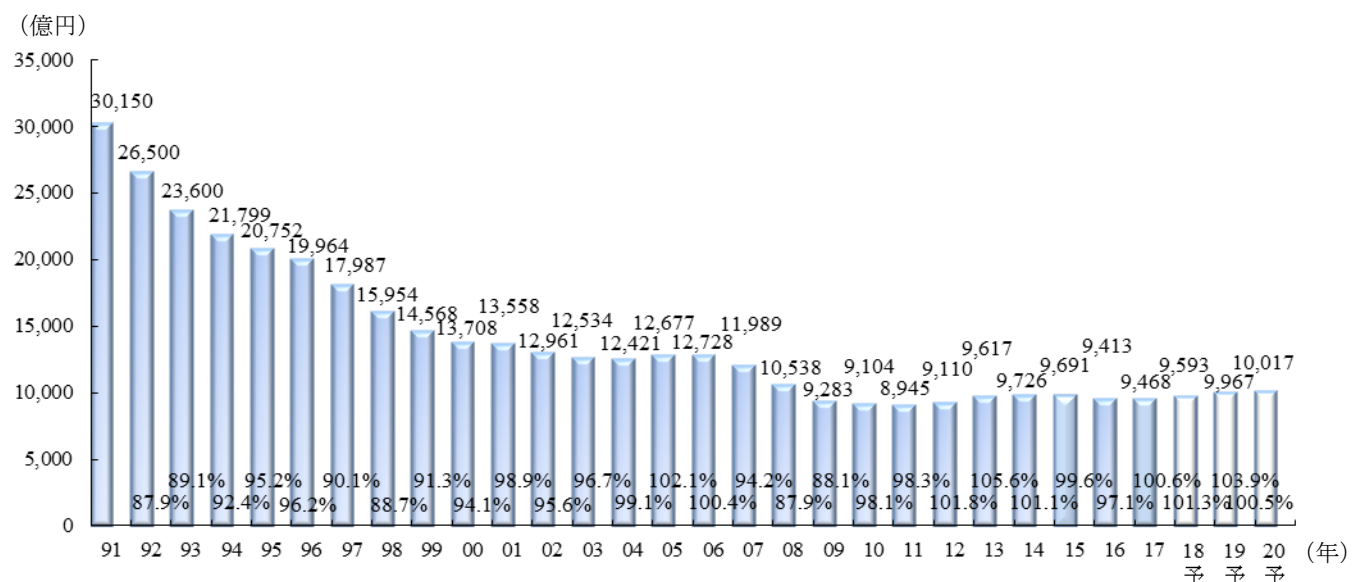
特に2017年は、大型クルーズ船による寄港が多かった九州において、インバウンド需要を取り込んだ専門店の販売が伸びた。観光客需要が見込める地域の専門店では、中国人スタッフを採用したり、免税手続きやアリペイ(支付宝)などの中国式支払い方式に対応するといった店舗が増加した。

2-2. 地金ジュエリー売上の伸長

2017年の日本円換算の金価格は過去最も高い水準にある。これに伴い、投資目的などで24金の宝飾品や喜平チェーンなどの地金ジュエリーの販売が伸びた。

一方、消費者の中古ジュエリーの買取市場も再び上昇傾向にある。消費者は金価格の値動きに敏感になっており、自分たちが保有する古いジュエリーも地金部分を中心に資産価値を持つことを知ようになり、中古ジュエリー買取市場への関心も高まりつつある。こうしたなか、中古ジュエリーの買取市場は拡大していくものと推察する。

図1. 国内宝飾品(ジュエリー)市場規模推移と予測



矢野経済研究所推計

注1. 小売金額ベース

注2. 2018年以降は予測値